

除雪は金山さんち!



小栗こぐり

森の子ども図書コーナー No.156

交流サロンぼすと内



『まわるよる』

ツペラツペラ / 作
小学館

テレビで職人がおいしそうなお寿司を作っているのを見ていたふとしくん。遅くまで起きているから「早く寝なさい」と怒られちゃった。タコのぬいぐるみを持ってお部屋に行くとベッドに入った。赤いふとんカバーがすてき。「ぐ〜ぐ〜」ふとしくんが深い眠りにつくと、ベッドが動き出した!何か音が聞こえる。「大將、あいてるかい?」「はい!」うらっしゃい!「うらやま!」これは夢?助かった。ちゃんとお部屋で寝ようね。今度は黄色いふとんカバーのベッドに入るふとしくん。今度はいい夢みれるといいけど、何が回っているのかな?あれ?「タコ」のぬいぐるみに…。

「図書室だより」

中央公民館内 9:00 ▶ 16:00



今月は14冊! / ※()内作者名

子どもが喜ぶ自然派おやつ (脇雅世) / シルバー川柳8 書き込んだ予定はすべて診察日 (全国有料老人ホーム協会) / 思い出が消えないうちに (川口俊和) / 10代に語る平成史 (後藤謙次) / それ「心理学」で説明できます。(清田予紀) / クラシック音楽 (中川右介) / これからはじめる山歩き (好日山荘 おとな女子登山部) / 帰り遅いけどこんなスープなら作れそう (有賀薫) / 身の丈にあった勉強法 (菅広文) / ひと (小野寺史宜) / ぼくが子どものころ、ほしかった親になる。(幡野広志) / 下町ロケット ヤタガラス (池井戸潤) / 54字の物語 (氏田雄介) / いいまちがいちゃん (のぶみ)



ひとつむぎの手 (知念実希人 / 新潮社)

大学病院で過酷な勤務に耐えている平良祐介は、医局の最高権力者・赤石教授に3人の研修医の指導を指示される。彼らを入局させれば、心臓外科医への道が開けるが失敗すれば…。さらに赤石が論文データを捏造したという怪文書が出回り、祐介は犯人探しを命じられる。医師として、人として、大切なものは何か。



自衛隊防災BOOK (自衛隊のみなさん / マガジンハウス)

テレビで話題沸騰の15万部突破の著書。今年は災害が多い年だったが、発災時や被災時に役立つもののほか、日常生活に役立つライフハックも書いている。静電気を防ぐ方法や靴ずれを起すにくくするなど。まずは日頃の備えが大切。あなたやあなたの大切な人を守る力になる一冊だ。

山形大学の地域連携型サークル「Team道草」
道草だよりでは、彼らの町内での活動を紹介!
「金山町×大学生」で産まれる新たな可能性を模索します

道草便り Vol.8



▶旧中田小学校を利用するなど、東北芸術工科大学の学生の皆さんは地域でのフィールドワークを実践

◀インタビューをさせていただいた栗田伸一さん。中田倶楽部のほか、様々な地域活動に奔走されている

「まつすぐな生き方が映る」
今回は中田地区の栗田伸一さんに取材してきました。中田倶楽部の理事長として活動されていることは、事前に存じていましたが、今回の取材で栗田伸一さんの熱量、パワーに圧倒されてしまいました!私たちが日頃活動している中で抱えている「地区を愛している若い担い手はいるのか」という疑問は「地区は自分の家なんだから自分でやるのが当たり前!」という言葉で中田の財産です。

で解消されました。住んでいる人だからこそ地域をより良くしていくことができる!。それを率先して活動しているのが中田地区。栗田さんがこの地区で生まれ育ってきた中で自然と得た感覚と経験がますます反映されていて、これからも進化していくのだなと感じました。そして、栗田伸一さんが地区を良くしたいと思っていることが中田の財産です。

ぶんげい

金山杉俳句会報 第四三三回

- 星川 きえ子
名を貰い命繋いだ水引草
小吉の神籤を引きぬ烏瓜
- 岸 あき子
葉牡丹の深紫に薄日差す
微笑みて一輪挿しの冬の薔薇
- 高橋 洋子
雲流れ池に影置く望の月
杉木立月の光射し清かなり
- 鵜沼 よし子
夕焼けに溶け込む自転車父かな
秋簾捲いて記憶を辿りけり
- 伊藤 敏子
手を振ればすとんと落ちし夕日かな
散歩道コース替えたる秋桜
- 阿部 サタエ
天高し定義詣での赤い塔
抽きん出し相輪の上鳥帰る
- 荒屋 阿部 勝子
コスモスは店の看板道の駅
悼 友人の他界
念仏に嗚咽のまじる秋の夜半
- 荒屋 関 喜美子
小春日や戌辰の史跡訪ねをり
新米を供へて胸を撫でおろし
- 菅越 庄司 けみ子
足速に無言着ぶくれ秋深し
晩菊の色とりどりの見事さよ
- 七日町 青柳 キエ子
あれこれと想ひめぐらす十三夜
昨夜のこと洗ひ流せり今朝の霜
- 七日町 柴田 栖静
秋天や羅漢巡りの旅想ふ
ひらひらの雲に応へぬ蕪紅葉
- 羽場 坂本 徳太郎
椅子席の多くなりたる敬老日
カメムシの羽音多雪の兆しかな
- 上台 阿部 一
快晴の秋陽借しみ夜具干せり
山は雪里人急かす十日かな
- 七日町 村松 泰風
霜降や曾孫案ずる長電話
霊山の威に抱かれし刈田かな

かねやま紅風会